2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	医科分子生物学特論Ⅱ	栗林 太

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2	選択	2	

目的

（1）分子標的治療薬の例を挙げるまでもなく，医療医科学と分子生物学的の密接性は高まっているので，本授業では医療を分子の視点から問うことを行いたい。受講により学生は分子生物学と医療医科学との関係を理解して，実験科学における疑問を解決する能力を獲得する。
（2）本授業は今後の医療への応用への一助となることによって，受講学生の研究遂行能力が高まる。
（3）また，本授業は討論を重視している。そのため，受講学生は自ら問題発見力を高め解決策を獲得する。

授業到達目標

（1）現存の核酸やタンパク質等の実験内容を説明できる。
（2）実験生物化学における可視化に関して理解できる。
（3）論文紹介において，既知と未知の区別ができ，紹介論文の良い点と悪い点の判断ができる。
（4）医療医科学と分子生物学の進歩を説明でき，更に遺伝子解析技術を一人で実施することができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	金	15:00-16:30	岡本 秀一郎	講義	[抄読会]	分子生物学と生物化学の英文論文を紹介する。それらに対する考察と討議を展開する。 [場所:本館棟６階カンファレンス室 12]
2	隔週	金	15:00-16:30	栗林 太	講義	[抄読会]	分子生物学と生物化学の英文論文を紹介する。それらに対する考察と討議を展開する。 [場所:本館棟６階カンファレンス室 12]

評価方法

（1）1 年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）1 年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。ただし，特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものとは異なる論文 （症例）であること。
※２月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）毎月，提出課題（レポート）に関するフィードバック講義と討論を行う。
（2） ２月には全てのレポートの振返り講義と総括を行う。

教科書

ISBN-9784524226825, Essential 細胞生物学, Bruce Alberts [ほか] 著 ; 青山聖子 [ほか] 訳, 南江堂, 2021

参考書

ISBN-9784621308523, イラストレイテッド生化学, Emine Ercikan Abali [ほか著] ; 石崎泰樹 [ほか訳], 丸善出版, 2023

準備学習（予習・復習等）

（1）あらかじめ直接の紹介論文を 1 時間，更には関係諸論文を各自検索調査を行い，それらも 1 時間以上読んでから講義に参加すること。
（2）講義中に出てくる疑問点を中心に，1 時間程度の復習をしてください。
（3）予習と復習の有無を講義中に確認します。具体的には，各自の課題発見能力を自学自修により高めることが必要です。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業科目では，実験生物学における問題の発見能力と解決方法を学びます。
その能力は学位認定のために必要です。

注意事項・メッセージ

（1）大きな日程変更はありませんが，担当者や日程が変更する可能性があります。
（2）学生の論文紹介に関して，希望があれば発表前に個別指導を行います。